

中学時代の一ページ

青山 彬

私が中学に入ったのは昭和十六年で新設校だった。前の府立四中の校長深井先生の設立で、父兄はいい学校と思ったのだろう。

私の家は当時、牛込区南榎町（今の新宿区）に住んでおり、通学には歩いて行けた。一年生の時は大きな変化（大東亜戦争）に入ったが、まだ市民生活は落ち着いた日常を送っていた。しかし、出征軍人の送別は多くなっていた。

学校生活は、新しい授業（英語・漢文・代数・幾何等）に閉口した。二年になる時、何処に行くのか気にしていたところ、埼玉の成増の小学校を借りることになり、今度は電車通学になった。はじめは楽しかったが、時間がかかり段々と横着になり、当時の東上線は遅れがひどく、天候によっても遅れが多かった。

成増駅の手前で止まることがよくあり、止まった時にドアが手動のために手で開けて飛び降りて学校に走って行き、校庭で朝礼をしている時が多く、先に教室に入り机の間に隠れて、皆が入って来るのを待っていて教室に入る時に合流して着席して待つことが多くあった。

授業中の思い出は、代数の時間と思うが初めてのテストが全然できないのがかなり居たので、その解答方法を指導して頂き、その後で改めてテストして全部でき、私が前のほうの席だったので私の顔を見て誉められた記憶が未だに残っている。

三年になると、戦争も激しくなり授業は二の次になって勤労働員に駆りだされることが多くなった。三年の時は、校庭作りに畠だった所を一米ートルほど削り、リアカーで校庭の端に運んで下に落とす作業をやらされたが幾日ほどやらされたか記憶にない。土を落とした先には大きな鳥小屋があった。鶏がいたかどうか確認しなかった。

土削りの後、我々は何か所かに分かれて工場に行ったが、私は日本重工（東上線の武蔵常盤にあったと思う）で、油送船に取り付ける仕切弁

を作る工場だった。初めて旋盤を見、動かす。その機械を操作していた人は井口さんといって、親切に教えてくれたが素人が簡単にできる仕事ではないが、行かざるを得なかった。暫くして、組み立てた弁の最終工程で水圧をかけ検査するが、全部水が弁から洩れて不良品になったと耳にする。

このことがあって、工場に行かなくなったと思う。工場である時、頭がくらくらしてきておかしいと思い、外に出たら地面が左右に動いているのが見えた。何処が震源地か当時はわからなかった、大分経ってから名古屋に被害が出たと聞いた。

日本重工の後の工場は無かった。戦況は段々厳しくなり、艦載機による銃撃が始まる。

四年になり、戦況はさらに厳しさを増し、三月十日の東京大空襲になる。まだ牛込に住んでいたが、夜の空襲が始まるとB29が低空で飛来し、サーチライトに照らし出された姿は巨大としか云えない。高射砲を打つが花火を打ち上げている様に火の玉が空に向かって行くが飛行機には全然当たらず、悠然と飛び姿を消していった。この時は住まいの方は無事だった。家には母と弟と、母方の祖父が来ており、護国寺のほうまで避難したが、明け方空襲が終わり帰宅する。

この処、学校の方はどうなっているのか記憶にないが、トラックで空襲の後の資材（特に鉄屑）回収に行かされた。この時、新橋の川の脇に建っている建物で、三部君が休み時間と思われるときに、ジャズのレコードとゼンマイの蓄音機を持ってきて聴かせてくれた。この時、ジャズの音楽を初めて耳にしたが、僕にはあまり好感は持てなかった。ただ五月蠅い音としか感じなかった。三部君は後日病で足を切断し、その後早世されたと耳にする。

この時の焼け跡での作業は全然記憶になく、多分深川の方と思われる川に一人の水死体を確認した。

その後五年の就学期間が四年に短縮され、五月まで中学に在籍するが、空襲が続いており、今日の空襲は終わりかと思われる頃に道路に出て、様子を見に行ったら、下の方（江戸川橋に向かう方向）に寺があり、その前の辺りが燃えているのが目に入る。防空壕で待避している母と弟を呼びに行き、防空壕の蓋に土を被せて家を出て道に出る。下は燃えてい

るので、上の方（市ヶ谷の小学校の方面）に歩き出す。この時の人数は数人だったと思うが、頭上で急にバサバサという音がしたので急いで体を地面に伏せ、暫くして静かになり、頭をあげて見ると、目の前に二本の焼夷弾が打ち上げ花火のように、筒の先から火を噴いているのが目に入る。一緒に行動していた人に被害はなく、そのまま市ヶ谷の小学校の方に向かって歩く。途中町田（国務大臣）邸の板塀が燃えており、消火を手伝ってくれと叫んでいたが、見過ごして小学校近くまで来たが、風が強く避けるものがないので、さらに前へ進み、府立四中の石垣のところで夜の明けるのを待つ。

私の家もこの日の空襲で焼失するが、防空壕に入れた日用品が焼けずに助かる。

母の親戚が埼玉の蕨に住んでおり、一時間借りすることになり、防空壕の品物を一週間かけて運ぶ。

この時も、川越街道上を自転車で運んでいるとき、艦載機の攻撃を受けたが、幸い空が曇っていて飛行機が見えず、また、飛行機側もこちらが見えなかったと思われ、難を免れる。

卒業の区切りははっきりしないが、5月には城北を離れ、終戦の日まで海軍の指揮下にあり、疎開の仕事をやらされていた。

現況

真冬や真夏の日は、医者や買い物に行く以外は家で過ごし、陽気が良くなると庭に出て草木の手入れ（盆栽）等をし、時にはコンピューターを使って株の動きを見て、適当に暇を楽しんでいる。